

脳脊髄液減少症



保健医療課健康推進係長

山 脇 明 子

どんな病気なの？

皆さんは、脳脊髄液減少症という病気をご存知でしょうか。脳脊髄液減少症は、交通事故やスポーツ外傷などによる、むち打ちや転倒・打撲などの強い衝撃で脳脊髄液が漏れ出し減少することによ

て、頭痛や首の痛み、めまい、吐き気、全身のだるさ、不眠などさまざまな症状を引き起こす病気とされています。症状は一つだけということは少なく、ほとんどの場合、複数の症状が重なって現れ、患者さんの多くは日常生活にも支障を来すほどつらく深刻です。

最近では、子どもが学校生活の中で起きた事故で発症するケースが多く報告されています。あまり知られていない病気ですが、誰もが日常的な出来事によって発症する可能性があります。身近な病気といえます。

診断・治療方法は？

患者団体のNPO法人「脳脊髄液減少症患者・家族支援協会」によると、国内には20万～30万人の患者がいるといわれていますが、これまで統一的な診断基準がなく、症状を訴えても適切な治療が受けられないまま、苦しむ人も少なくありませんでした。

平成19年度以降、厚生労働省で研究が進められ、平成22年10月にM

RI(磁気共鳴画像化装置)などの画像で診断する基準が発表されました。現在は、治療の有効性を確認する作業が進められています。

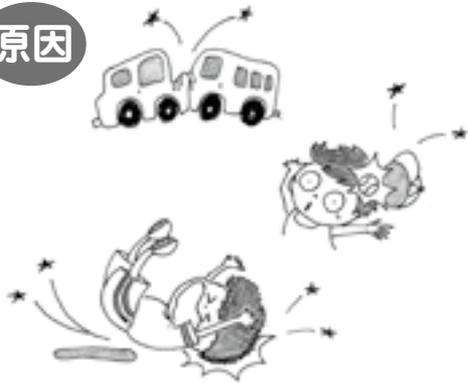
診断は「問診」による症状の把握と、「画像診断」で行われます。治療は、ブラッドパッチ治療法(血液が凝固する性質を利用して自分の血液を注射器で硬膜外に注入し、自然に漏れている部分をふさぐ治療)があります。

しかし、この病気の診断や治療を行っている医療機関は少なく、受診できる医療機関を探すことが困難な状況にあります。

情報提供に取り組んでいます

広島県では平成22年4月から、脳脊髄液減少症の診療体制や相談窓口に関する情報提供をホームページで行っています。診察や相談を行う県内35カ所の医療機関と、そのうち治療を行っている14カ所の医療機関を公開しています。本市も、病気に対する理解を深めてもらおうと、ホームページを活用した情報提供に取り組んでいます。

原因



症状



市ホームページから

トップページ → 健康・福祉 → 健康と医療 → 脳脊髄液減少症